

LS研究委員会では、2019年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、研究分科会21テーマ、短期研究分科会3テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

2019年度活動

参加者募集中

研究分科会

4月から翌年3月まで1年間
原則月1回実施

「先進的ICT適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」などについて、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Takeの精神で共同研究を行い、成果を創出する活動です。その成果を論文としてまとめ、翌年のLS研総合発表会で発表します。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材の育成も活動の目的としています。

カテゴリ	No.	研究テーマ名
ICT 戦略／ 人材育成	1	異業種共創によるデータ活用ビジネスの創出
	2	IT サービス業の労働集約型産業からの脱却に向けた研究
	3	要件定義工程におけるステークホルダー・マネジメントを活用した精度向上
	4	デジタルトランスフォーメーション時代の基幹系システム刷新に向けたリスクマネジメントの研究
	5	経営層を巻き込んだデジタル化を推進できる人材の研究
	6	技術の変化に左右されない情報システム部門の人材像に関する研究
技術／技法	7	既存システムの利活用を前提としたアジャイル開発におけるデータモデリング技法の研究
	8	AIに適する課題と適さない課題の見分け方に関する研究
	9	実践を通じたディープラーニングの特性と適用業務の研究
	10	ブロックチェーン技術を活用したスマートコントラクト・アプリケーションの業務適用の研究
	11	インテリジェントオートメーション化による生産性向上の研究
	12	エッジコンピューティングとクラウドを活用した「現場のデジタル化」の研究
	13	システム品質向上に向けたインフラ作業プロセスの自動化に関する研究
	14	次世代企業ネットワークに関する研究
	15	生体認証技術の適用に関する研究
管理／運用	16	ハイモダリティ時代の運用保守体制に関する研究
	17	グローバル運用アウトソーシングサービスでのベンダーとの最適な役割分担・スキームの研究
	18	働き方の多様化に向けたデバイス運用管理のあるべき姿
	19	マルチクラウド時代における統合ログ管理に関する研究
新分野	20	デジタルトランスフォーメーション時代のSRE人材に必要な手法の研究
	21	超高齢化・人口減少社会におけるIoT利活用の研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

短期研究分科会

5月から10月まで半年間
原則月1回実施

タイムリーで実践的、先進的なテーマに対し、市場動向の調査や企業の取り組み状況などの情報を共有します。参加メンバーによる意見交換、調査、検討に重点を置き、調査

報告書をまとめた後、成果報告会にて活動結果を発表します。1年間の研究分科会と同様に、富士通グループよりテクニカルアドバイザーが活動をサポートします。

No.	研究テーマ名
1	業務システムのデジタル化に向けたマイクロサービスアーキテクチャ適用検討
2	マルウェア対策に向けたエンドポイントとネットワークの適切な関係に関する研究
3	頻繁に変更が発生するセキュリティルールに関する効率的な管理手法の確立

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

2018年度活動報告とご案内

マネジメントフォーラムは、業種業態を超えたリーダー同士が日々抱えている課題を共有・議論することで、これまでにない気づきや明日へのヒントを得るために、活用いただいている場です。LS研セミナーは、先進的な取り組み事例やパネルディスカッションを通じて、情報システムの企画／構築／運用やICT戦略について情報交換を行う場です。

マネジメントフォーラム

リーダー層／マネージャー層向けイベント
年2回実施

【テーマ】

「ビジネスに貢献するICT部門を目指して」
—最前線のリーダーが、今、何に取り組むべきか—

於：湘南国際村センター（神奈川 葉山）

第1回は2013年度から継続のテーマで、8月2日（木）から1泊2日の合宿形式で開催されました。メンバー14名、アドバイザー（LS研幹事）2名の体制で、現状分析から課題を抽出し、解決策や具体的施策といったアウトプットを2つのグループが互いに発表し合い、最後にICT部門がビジネスに貢献するために自分ができることを決意表明しました。

第2回は、2019年2月7日（木）より1泊2日の合宿形式、継続テーマにて開催予定です。



【参加者コメント】

「様々な業種、立場の方々と同じ目的で討議でき、いつもとは違う考え方ができた」「開始前は不安でしたが、参加者の方々や事務局・アドバイザーのフォローをいただき、リラックスしてグループ討議ができた」「目的が合うこと、制限事項がないことでディスカッションが活発になり、今までなかった発想が生まれた」「役割を変えながら討議したことで、色々な意見も出たし情報交換ができたと思う」

LS 研セミナー

ICT部門の部長～リーダー層向けイベント
年2回実施

【第1回：テーマ】

企業のデジタル革新を支えるアジャイル開発

於：東京・大阪

事例紹介やパネルディスカッションなどを行うLS研セミナー。第1回は、11月8日（木）に東京、11月22日（木）に大阪で開催。富士通から最新のトレンドや技術動向、(株)富士通ソフトウェアテクノロジーズから実践経験で得た成功させるための独自のノウハウ、人材育成の方法の紹介、独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）アジャイルWGから“ITSS+（プラス）”の「アジャイル領域」のご紹介および2018年度LS研情報化調査の結果報告が行われました。

第2回は2019年2月21日（木）に開催予定です。



【参加者コメント】

「実務者から日本における全体方針（IPA）と複数局面からの意見をうかがえたことがとても有意義であった」「現在の動向をベースに将来に向けた取り組みが紹介され、実務にどう活かすかを考えるための良い機会となりました」「どういった開発がアジャイル開発に向いているかが理解できた」「アジャイル開発について誤解していたことが、解消された」

情報化調査 LS研ICT白書

会員企業における
ICT活用に関する調査

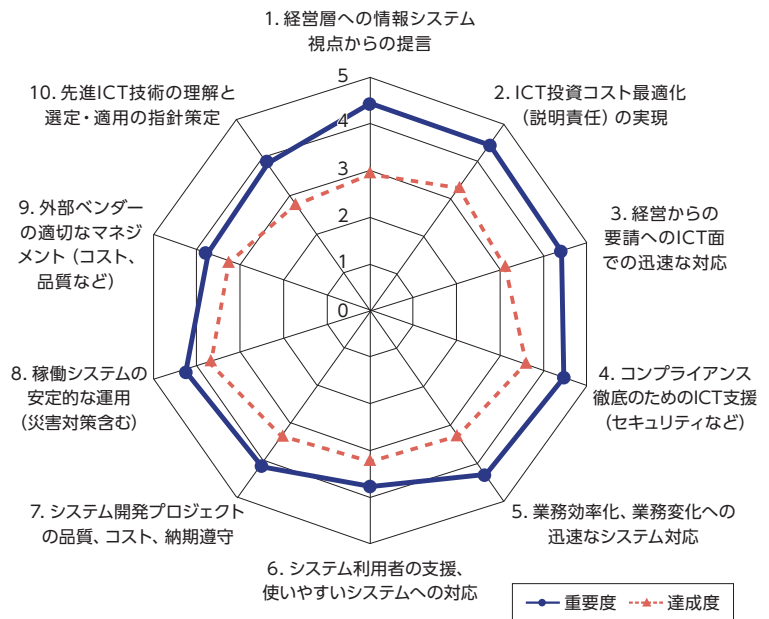
LS研ICT白書は、LS研究委員会の会員企業におけるICTの活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

Give & Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員の方のみに配布をしております。2018年度も多くの会員の方々にご回答いただきまして誠にありがとうございました。

今年度のICT 白書では、従来の調査テーマに加え、「情報システム・情報システム部門 これからの10年」というテーマを新規に設定致しました。

情報システム部門の 役割と機能

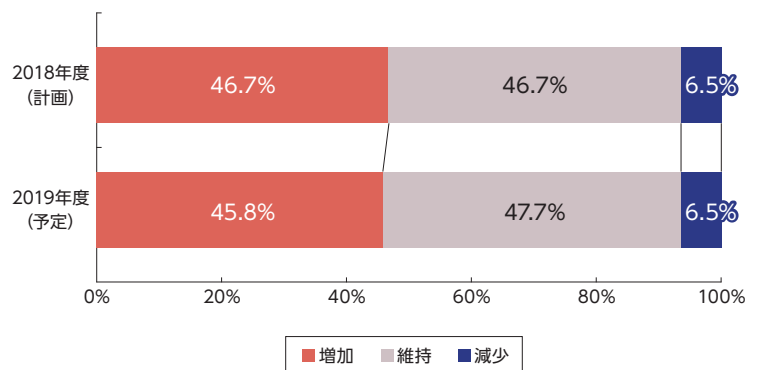
- 情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「4.コンプライアンス徹底のためのICT支援」、次いで「1.経営層への情報システム視点からの提言」「2.ICT投資コスト最適化の実現」「3.経営からの要請へのICT面での迅速な対応」となっている。
- 重要度と達成度の差分の傾向としては、「9.外部ベンダーの適切なマネジメント（コスト、品質など）」や「6.システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」など従来から情報システム部門に求められている役割・機能に対する達成度は高い。
- 一方で、「1.経営層への情報システム視点からの提言」「2.ICT投資コスト最適化の実現」などの役割・機能については情報システム部門として対応しきれていない意識が強いことがいえる。



図表1. 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成度の認識 (有効回答:122会員)

情報システム部門の ICT投資状況

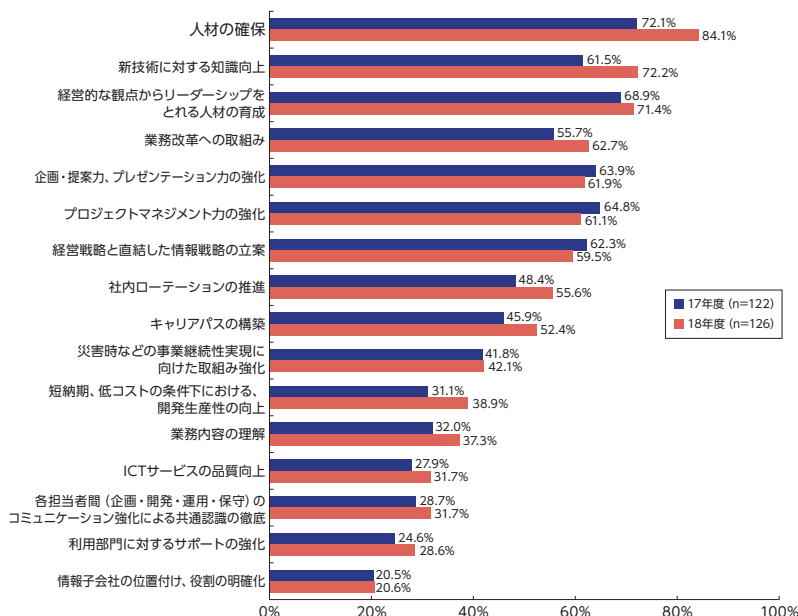
年間の全社情報システム関連費用の、年間売上高に対する比率の増減について、2018年度（計画）、2019年度（予定）ともに、増加、維持が9割以上となり、同様の傾向となっている。



図表2. ICT投資額の増減傾向 (有効回答:107会員)

情報システム部門における課題

- 情報システム部門における課題は「人材の確保」が最も多く、84.1%の会員が課題として挙げている。
- 16項目の課題のうち最も増加した課題は「人材の確保」の12.0ポイント、続いて「新技術に対する知識向上」の10.7ポイントとなっている。

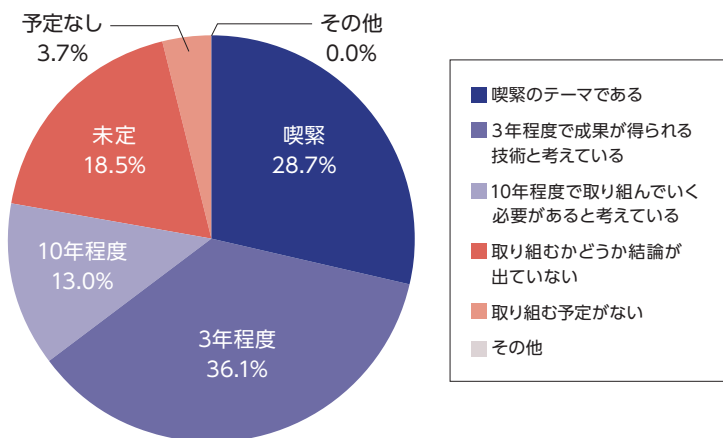


図表3. 情報システム部門における課題認識2017年度、2018年度比較 (有効回答:126会員)

情報システム・情報システム部門 今後の10年

(1) 技術とその将来性について (機械学習・ディープラーニング)

「3年程度で成果が得られる技術と考えている」が最も多く36.1%、続いて「喫緊のテーマである」が28.7%となっている。併せて6割超の会員が早期に成果獲得を目指していることがわかる。



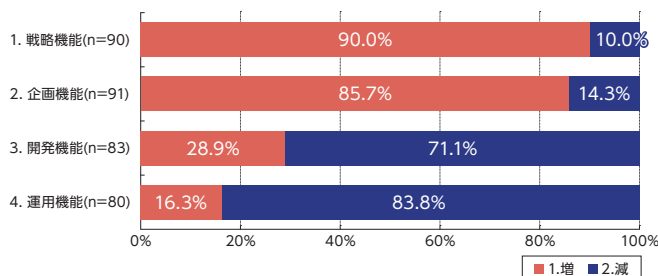
図表4. 機械学習・ディープラーニングによる成果獲得の時期 (有効回答:108会員)

(2) 情報システム部門の内部要員の変化について

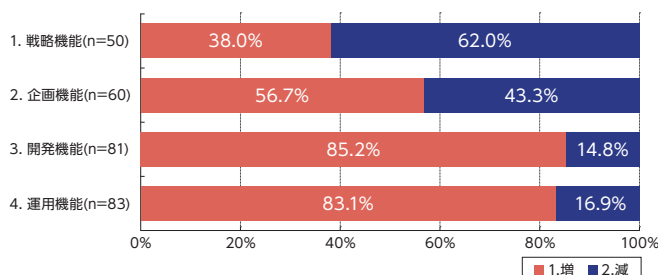
— 情報システム部門の業務に配置する人員の今後の中長期の見通し (内部要員と情報子会社・ベンダーへの外部委託) —

内部要員については戦略機能を重視。また、情報子会社・ベンダーへの外部委託については運用機能を重視していることがわかる。

(個別のご意見より) 限られた人員の中で企画から開発・運用保守に至るまでカバーし、かつ、デジタル化等の新分野にもある程度は追従しつつ、日々進化するOSやミドルウェア・言語に対応していくためには、段階的にコアな開発以外を外部委託し、内部要員はより上流や利用者部門に近い部分に配置することが必要。



図表5. 情報システム部門の各業務に配置する内部要員の推移についての 中長期の見通し(有効回答:98会員)



図表6. 情報システム部門の各業務についての外部委託の中長期の見通し (有効回答:92会員)